

Appendix



—●用語解説と索引

用語解説 - Glossary

■裏コード

(サブスティテュートドミナントコード)

トライトーン(三全音)を構成する2つの音が共通するドミナントセブンスコードのこと。コード進行上、置き換えが可能であるため、置換ドミナントコードとも呼ばれる。たとえばCメジャーキーでの調性上のドミナントセブンスコードG7(ソシレファ)では、シとファの音でトライトーンが構成されるが、この場合は、G7同様、構成音にシとファを持つD♭7(レ♭ファラシ)がG7の裏コードに該当する。

裏コードは、調性上のトニックコードやセカンドリードミナントセブンスコードに対するトニックコードなどから見ると、常にⅡ7にあたるコードになる。また、五度圏の図では、調性上のドミナントセブンスコードのルート音のちょうど反対側にある音をルートとするドミナントセブンスコードが裏コードとなる。

裏コード(♭Ⅱ7)からトニックコード(IやIm)へ向かう進行は、本来のドミナントモーション(V7→IやIm)が持つルートの強進行による進行感とは違った、ルートの半音下行によるなめらかな進行感が持ち味と言える。

例)Cメジャースケールでの裏コード

G7 (調性上)	D♭7 (裏コード)
A7 (セカンドリード)	E♭7 (裏コード)
B7 (セカンドリード)	F7 (裏コード)
C7 (セカンドリード)	G♭7 (裏コード)
D7 (セカンドリード)	A♭7 (裏コード)
E7 (セカンドリード)	B♭7 (裏コード)

例)Aマイナースケール(実用版)での裏コード

E7 (調性上)	B♭7 (裏コード)
G7 (セカンドリード)	D♭7 (裏コード)
A7 (セカンドリード)	E♭7 (裏コード)
B7 (セカンドリード)	F7 (裏コード)
C7 (セカンドリード)	G♭7 (裏コード)
D7 (セカンドリード)	A♭7 (裏コード)

■音部記号

五線の左側冒頭に記される、五線と音の高さの基準を指定する記号。ト音記号では下第一線、八音記号では第三線の位置が、ピアノの鍵盤で言う左側から4つ目のドの高さを表している。また、ヘ音記号では、第二間がピアノの鍵盤の左側から3つ目のドの高さを表している。

■下属和音(サブドミナントコード)

下属音(ダイアトニックスケールの第4音。サブドミナント音)をルートとする和音。進行に色彩を与える主要三和音の1つで、CメジャーキーならばFやFM7が該当する。

■完全協和音程

1度、4度、5度、8度の各音程は、完全協和音程と呼ばれ、冒頭に“完全”という言葉を加えて表す。完全協和音程の特徴は、濁りのない澄んだ響きにある。完全1度の周波数比率は1:1、完全5度は2:3、完全4度は3:4、完全8度(=オクターブ)は1:2というシンプルな値になる。略記の際はP4th(P4)、P5th(P5)などのように数字の前にPを書き加える。

■キー(調)

メロディやコード進行上の中心となる音と属性(調性)を表したもので、それらと密接な関係を持つ音やコードの体系をも指す。

・シャープ系のキー(調号にシャープがつく)

数	キー
1	Gメジャー/Eマイナー
2	Dメジャー/Bマイナー
3	Aメジャー/F#マイナー
4	Eメジャー/C#マイナー
5	Bメジャー/G#マイナー
6	F#メジャー/D#マイナー
7	C#メジャー/A#マイナー

* 調号にシャープが書き込まれる順番は、
ファ→ド→ソ→レ→ラ→ミ→シ

・フラット系のキー(調号にフラットがつく)

数	キー
1	Fメジャー/Dマイナー
2	B♭メジャー/Gマイナー
3	E♭メジャー/Cマイナー
4	A♭メジャー/Fマイナー
5	D♭メジャー/B♭マイナー
6	G♭メジャー/E♭マイナー
7	C♭メジャー/A♭マイナー

* 調号にフラットが書き込まれる順番は、
シ→ミ→ラ→レ→ソ→ド→ファ

■強進行(4度進行)/弱進行(5度進行)

強進行とは、ルートの4度上行(または5度下行)に従った進行感の強いコード進行のこと。Cメジャーキーを例にすると、ド→ファ、レ→ソ、ミ→ラ、ファ→シ、ソ→ド、ラ→レ、シ→ミのように、ルートが現在の音から4つ右の白鍵の音

へ向かって進む。これらの中で増4度上行(減5度下行)になるファ→シ以外は完全4度上行(完全5度下行)となるため、特に完全4度進行と呼ばれる。たとえばCメジャーキーでCのコードから4度進行をスタートさせると、C→F→Bm⁵→Em→Am→Dm→G→Cという、7つのダイアトニックコードの循環が得られる。

一方、ルートの5度上行(または4度下行)に従ったコード進行を5度進行と言う。Cメジャーキーを例にすると、ド→ソ、レ→ラ、ミ→シ、ファ→ド、ソ→レ、ラ→ミ、シ→ファのように、ルートが現在の音から5つ右の白鍵の音へ向かって進む進行となる。Bm⁵→Fの際にルートがシ→ファと減5度上行(増4度下行)する以外はすべて完全5度上行(完全4度下行)の組み合わせとなるため、これらについては特に完全5度進行と呼んでいる。この5度進行には4度進行よりも進行感が弱いことから、弱進行という名称が与えられている。たとえばCメジャーキーでCのコードから5度進行をスタートさせるとC→G→Dm→Am→Em→Bm⁵→F→Cとなり、4度進行と同様に7つのダイアトニックコードの循環が得られる。

■近親調/遠隔調

あるキーに対して親和性が感じられるキーを近親調、それ以外のキーを遠隔調と呼ぶ。Cメジャーキーを例にすると、調号を等しくするAマイナー(平行調)、主音を等しくするCマイナー(同主調)、属音を主音とするGメジャー(属調)、下屬音を主音とするFメジャー(下屬調)の各キーが近親調となる。なお、属調の平行調となるEマイナーキー(属調平行調)や下屬の平行調となるDマイナーキー(下屬調平行調)を近親調に含めることもある。

■クロマティックスケール

半音階。つまり、隣り合う音との音程が、すべて半音で構成される音階のこと。スタートの音から12の半音を経て1オクターブ上のスタートの音に到達する。

■サブドミナントマイナー

メジャーキーでのサブドミナントコード(IV)を、同主(短)調のサブドミナントコード(IV_m)に置き換えたもの。Cメジャーキーを例にすると、FやFM7がサブドミナントコード、F_mやF_m7がサブドミナントマイナーコードにあたる。

サブドミナントマイナーコードはメジャーの7つのダイアトニックコードには含まれないため、使用した場合、そこで転調が行われたようにも思えるが、通常はあくまで同主短調から一時的に借りてきたコードと解釈する(そのため借用和音とも呼ばれている)。

なお、サブドミナントマイナーコードには、以下の代理和音が使用できる。

・サブドミナントマイナーの代理和音

オリジナルのサブドミナントマイナー

IV_m、IV_m7

代理和音

bIIIM7、IIIm⁻⁵、IIIm7⁻⁵、bVI、bVI6、bVIM7、bVII7

例)Cメジャーキーでのサブドミナントマイナーコードとその代理和音

オリジナルのサブドミナントマイナー

F_m、F_m7

代理和音

D^bM7、Dm⁻⁵、Dm7⁻⁵、A_b、A_b6、A_bM7、B_b7

■主要三和音(スリーコード)

ダイアトニックコードの中で、重要な役割を果たす3つのコードのこと。

その中でも最も重要なのが、ダイアトニックスケールの主音上に構成されるトニックコードで、そのキーでの中心となるコードということから主和音とも呼ばれる。2つ目はダイアトニックスケールの第5音(属音)上に構成されるドミナント(三和音)/ドミナントセブンスコード(四和音)で、属音上に構成されることから属和音とも呼ばれる。3つ目は、ダイアトニックスケールの第4音(下属音)上に構成されるサブドミナントコード=下属和音で、これは属和音の次に重要とされている。

トニックコードは、そのキーの中で最も安定した響きを持ち、調性を決定づける役割を果たす。ドミナント/ドミナントセブンスコードは響きが不安定で、トニックコードに進んで安定した状態を得ようとする性格を持つ(この性格は、ドミナントコードよりドミナントセブンスコードの方が強い)。サブドミナントコードはドミナント/ドミナントセブンスコードほどではないが、やはりトニックコードに進んで安定を得ようとする性格がある。ただし、その一方で、より不安定な響きのドミナント/ドミナントセブンスコードに進もうという性格も併せ持っており、どちらにも進める中間的な立ち位置のコードとも言える。

■主和音(トニックコード)

主音(ダイアトニックスケールの起点となる音)をルートとする和音。属和音とともにキーを決定づける主要三和音の1つ。CメジャーキーならばCやCM7、AマイナーキーならばAmやAm7などが該当する。

■順次進行/跳躍進行

ダイアトニックスケール上の隣り合った音へ移動する進行が順次進行。1つおき以上離れた音へ移動する進行が跳躍進行。

■スケール

音を低い方から高い方へ(またはその逆に)順番に並べた階段のようなもの。そのため音階とも言う。メジャー、マイナーのダイアトニックスケール以外にも、オクターブを構成する音の数や隣の音との間隔(音程)の組み合わせの違いによって、さまざまなスケールが存在する。

■セカンダリードミナントセブンスコード

副属七の和音とも呼ばれる、個々のダイアトニックコードをトニックコードに見立てた際に成立するドミナントセブンスコードのこと。特定のダイアトニックコードを導き出す形で、そのダイアトニックコードの前に置かれる。

なお、調性上のトニックコード(I)に対するセカンダリードミナントセブンスコードは成立しない(調性上のドミナントセブンスコード=プライマリードミナントセブンスコードとなるため)。また、 $\square m^{-5}$ や $\square m 7^{-5}$ といった構成音のコードは、ルート+長3度または短3度+完全5度を基本とする通常のトニックコードには見立てることができないため、これらについてもセカンダリードミナントセブンスコードは存在しない。

一方、調性上のドミナントセブンスコード(V7)に対するセカンダリードミナントセブンスコード(II7)のことを、特にダブルドミナントセブンスコード(ドッペルドミナント)と呼ぶ。メジャースケールとマイナースケール(実用版)の各ダイアトニックコードに対するセカンダリードミナントセブンスコードは、次のようになっている。

・メジャースケール

セカンダリードミナント	ダイアトニック
VI7	→ II m, II m7
VII7	→ III m, III m7
I7	→ IV, IVM7
II7(ダブルドミナント)	→ V, V7
III7	→ VI m, VI m7

例)Cメジャースケールでの場合

セカンダリードミナント	ダイアトニック
A7	→ Dm, Dm7
B7	→ Em, Em7
C7	→ F, FM7
D7(ダブルドミナント)	→ G, G7
E7	→ Am, Am7

・マイナースケール(実用版)

セカンダリードミナント	ダイアトニック
bVII7	→ bIII, bIII M7
I7	→ IVm, IVm7
II7	→ Vm, Vm7
II7(ダブルドミナント)	→ V, V7
bIII7	→ bVI, bVI M7
IV7	→ bVII, bVII7

例)Aマイナースケール(実用版)での場合

セカンダリードミナント	ダイアトニック
G7	→ C, CM7
A7	→ Dm, Dm7
B7	→ Em, Em7
B7(ダブルドミナント)	→ E, E7
C7	→ F, FM7
D7	→ G, G7

■増音程／減音程

長音程や完全協和音程から半音広い音程を増音程、短音程や完全協和音程から半音狭い音程を減音程と呼ぶ(ただし、減1度という使い方はしない)。ちなみに、通常我々が使用している十二平均律という調律法に従った音階では、増1度=短2度や増4度=減5度のように、異名同音程になるケースが生じる。

■属和音(ドミナントコード)

属音(ダイアトニックスケールの第5音。ドミナント音)をルートとする和音。主和音とともにキーを決定づける主要三和音の1つで、CメジャーキーならばGやG7が該当する。なお、この場合のG7のように、ルートから短7度音程にある音を加えて四和音化されたドミナントコードは、特にドミナントセブンスコード(属七の和音)と呼ばれる。ドミナントセブンスコードは、単なるドミナントコードとは違い、構成音の中にトライトーン(三全音)を含んでいるのが特徴。

■ダイアトニックコード

ダイアトニックスケール上の7つの音をルートとし、かつスケール内の音だけを使用して作られるコードのこと。構成音が3声のものを三和音(トライアド)、4声のものを四和音と言う。メジャーと各種のマイナースケール上ごとに構成されるコードが異なる。

■ダイアトニックコード(メジャー)

メジャーのダイアトニックスケール上での三和音はI、II m、III m、IV、V、VI m、VII m⁻⁵、四和音はI M7、II m7、III m7、IV M7、V7、VI m7、VII m7⁻⁵の形をとる。Cメジャースケール上に構成される三和音と四和音は次のようになる。

例)Cメジャースケールでのダイアトニックコード(三和音)

I	→ C
II m	→ Dm
III m	→ Em
IV	→ F
V	→ G
VI m	→ Am
VII m ⁻⁵	→ Bm ⁻⁵

例)Cメジャースケールでのダイアトニックコード(四和音)

I M7	→ CM7
II m7	→ Dm7
III m7	→ Em7
IV M7	→ FM7
V7	→ G7
VI m7	→ Am7
VII m7 ⁻⁵	→ Bm7 ⁻⁵

■ダイアトニックコード(ナチュラルマイナー)

ナチュラルマイナースケール上のダイアトニックコードは、メジャースケールとナチュラルマイナースケールの関係をそのまま踏襲するため、メジャーのダイアトニックコードのVI m(VI m7)から順に並べ替えたものと言える。なお、単にマイナースケール(短音階)と言った場合は、このナチュラルマイナースケールを指すのが一般的である。

ナチュラルマイナースケール上での三和音はI m、II m⁻⁵、^bIII、IV m、V m、^bVI、^bVII、四和音はI m7、II m7⁻⁵、^bIII M7、IV m7、V m7、^bVI M7、^bVII7の形をとる。

Aナチュラルマイナースケール上に構成される三和音と四和音は次のようになる。

例)Aナチュラルマイナースケールでのダイアトニックコード(三和音)

I m → Am
 II m⁻⁵ → Bm⁻⁵
 ♭III → C
 IVm → Dm
 Vm → Em
 ♭VI → F
 ♭VII → G

例)Aナチュラルマイナースケールでのダイアトニックコード(四和音)

I m7 → Am7
 II m7⁻⁵ → Bm7⁻⁵
 ♭III M7 → CM7
 IVm7 → Dm7
 Vm7 → Em7
 ♭VI M7 → FM7
 ♭VII 7 → G7

■ダイアトニックコード(ハーモニックマイナー)

ハーモニックマイナースケール上のダイアトニックコードは、スケール構成音の変化に伴う変更を受けた結果、三和音はI m、II m⁻⁵、♭III⁺⁵、IVm、V、♭VI、VII m⁻⁵、四和音はI m M7、II m7⁻⁵、♭III M7⁺⁵、IV m7、V7、♭VI M7、VII dim7の形をとる。Aハーモニックマイナースケール上に構成される三和音と四和音は次のようになる。

例)Aハーモニックマイナースケールでのダイアトニックコード(三和音)

I m → Am
 II m⁻⁵ → Bm⁻⁵
 ♭III⁺⁵ → C⁺⁵

IVm → Dm
 V → E
 ♭VI → F
 VII m⁻⁵ → G[#]m⁻⁵

例)Aハーモニックマイナースケールでのダイアトニックコード(四和音)

I m M7 → Am M7
 II m7⁻⁵ → Bm7⁻⁵
 ♭III M7⁺⁵ → CM7⁺⁵
 IVm7 → Dm7
 V7 → E7
 ♭VI M7 → FM7
 VII dim7 → G[#]dim7

■ダイアトニックコード(メロディックマイナー)

メロディックマイナースケール上のダイアトニックコードは、スケール構成音の変化に伴う変更を受けた結果、三和音はI m、II m、♭III⁺⁵、IV、V、VI m⁻⁵、VII m⁻⁵、四和音はI m M7、II m7、♭III M7⁺⁵、IV7、V7、VI m7⁻⁵、VII m7⁻⁵の形をとる。Aメロディックマイナースケール上に構成される三和音と四和音は次のようになる。

例)Aメロディックマイナースケールでのダイアトニックコード(三和音)

I m → Am
 II m → Bm
 ♭III⁺⁵ → C⁺⁵
 IV → D
 V → E
 VI m⁻⁵ → F[#]m⁻⁵
 VII m⁻⁵ → G[#]m⁻⁵

例) Aメロディックマイナースケールでのダイアトニックコード(四和音)

I m M7 → Am M7
II m7 → Bm7
♭III M7⁺5 → CM7⁺5
IV7 → D7
V7 → E7
VI m7⁺5 → F⁺m7⁺5
VII m7⁺5 → G⁺m7⁺5

■ダイアトニックスケール

7つの音でオクターブを形成する音階のこと。

■ダイアトニックスケール(メジャー)

各音が、全音・全音・半音・全音・全音・全音・全音・半音の間隔で並べられたスケール。長音階と呼ばれる。上記の配置間隔に従ってド(C)の音から順に音を並べると“ドレミファソラシ”となり、このドから始まる(=ドを主音とする)長音階をCメジャースケールと呼ぶ。同様に、レの音を起点に並べてみると“レミファ[♯]ソラシ[♯]”となり、この場合はDメジャースケールとなる。

■ダイアトニックスケール(ナチュラルマイナー)

3つのバリエーションを持つマイナーのダイアトニックスケールのうち、各音が、全音・半音・全音・全音・半音・全音・全音の間隔で並べられた音階をナチュラルマイナースケールと呼び、自然短音階とも言う。上記の配置間隔に従ってラ(A)の音から順に音を並べると“ラシドレミファソ”となり、このラから始まる(=ラを主音とする)音階をAナチュラルマイナースケールと呼ぶ。同様に、ドの音を起点に並べてみると“ドレミ[♭]ファソラ[♭]シ[♭]”となり、この場合はCナチュラル

マイナースケールとなる。

なお、ナチュラルマイナースケールはメジャースケールを第6音から並べ直したのと同じことができ、たとえばCメジャースケールを第6音から並べ直した“ラシドレミファソ”は、Aナチュラルマイナースケールとまったく同じになる。

■ダイアトニックスケール(ハーモニックマイナー)

各音が、全音・半音・全音・全音・半音・全音・半音の間隔で並べられた音階をハーモニックマイナースケールと呼び、和声短音階とも言う。上記の配置間隔に従ってラ(A)の音から順に音を並べると“ラシドレミファソ[♯]”となり、これをAハーモニックマイナースケールと呼ぶ。同様に、ドの音を起点に並べてみると“ドレミ[♭]ファソラ[♭]シ[♯]”となり、この場合はCハーモニックマイナースケールとなる。

■ダイアトニックスケール(メロディックマイナー)

各音が、全音・半音・全音・全音・全音・全音・半音の間隔で並べられた音階をメロディックマイナースケールと呼び、旋律短音階とも言う。上記の配置間隔に従ってラ(A)の音から順に音を並べると“ラシドレミファ[♯]ソ[♯]”となり、これをAメロディックマイナースケールと呼ぶ。同様に、ドの音を起点に並べてみると“ドレミ[♭]ファソラ[♭]シ[♯]”となり、この場合はCハーモニックマイナースケールとなる。

メロディックマイナースケールは上行に用いられるのが基本で、旋律短音階(上行型)、メロディックマイナースケール(上行型)のように“上行型”を付けて表されることも多い。なお、下行時にはナチュラルマイナースケールを使用す

るのが一般的だが、あえてメロディックマイナースケールで下行するケースも見受けられる。

■代理和音

主要三和音の機能(役割や性格)を、主要三和音に代わって担うことができるコードのこと。代理コードとも呼ばれる。代理和音には基本的に主要三和音以外の4つのダイアトニックコード(=副三和音)が利用される。また同じ機能を持つ主要コードの次に代理コードが続く進行では、主要コードを先に置くのが基本。なお、メジャーとマイナースケールでは主要コードとそれを代理できるコードの関係に違いがある。

・メジャースケールでの代理和音

機能	代理和音
T(I, I M7)	III m, III m7, VI m, VI m7
D(V, V7)	VII m ⁻⁵ , VII m7 ⁻⁵
S(IV, IV M7)	II m, II m7

例) Cメジャースケールでの代理和音

機能	代理和音
T(C, CM7)	Em, Em7, Am, Am7
D(G, G7)	Bm ⁻⁵ , Bm7 ⁻⁵
S(F, FM7)	Dm, Dm7

・マイナースケール(実用版)での代理和音

機能	代理和音
T(I m, I m7)	♭III m, ♭III M7, ♭VI, ♭VIM7
D(V m, V m7)	♭VII, ♭VII m7
D(V, V7)	VII m ⁻⁵ , VII dim7
S(IV m, IV m7)	II m ⁻⁵ , II m7 ⁻⁵ , ♭VI, ♭VIM7, ♭VII, ♭VII7

・Aマイナースケール(実用版)での代理和音

機能	代理和音
T(Am, Am7)	C, CM7, F, FM7
D(Em, Em7)	G, G7
D(E, E7)	G [#] m ⁻⁵ , G [#] dim7
S(Dm, Dm7)	Bm ⁻⁵ , Bm7 ⁻⁵ , F FM7, G, G7

■長音程/短音程

長音程よりも半音狭い音程が短音程、短音程よりも半音広い音程が長音程。2度、3度、6度、7度の音程は、冒頭にこの“長・短”を加えて表記する。また、略記する場合、長音程はM3rd、短音程はm3rdのように、数字の前につけられたMの大文字小文字で区別する。

■ツーファイブ

ダイアトニックコードのツー(II m7やII m7⁻⁵、II m6など)からファイブ(V7)へと進むコード進行を指す言葉。サブドミナントコード(IV)→ドミナントセブンスコード(V7)という進行のIVを代理コードのII m7に置き換えたものと言え、かつ、ルートが第2音から第5音へと進む、完全4度進行の1つとも言える。数字の上ではツーとファイブの組み合わせにならないIII m7→VI7(セカンダリードミナントセブンスコード)やVI m7→II7(セカンダリードミナントセブンスコード)のような進行も、一般的にはツーファイブに含まれる。また、V7の部分を裏コードの♭II7に置き換えたり、II m7の部分をII m7/Vに置き換えるなどした、変形のツーファイブなどが使用されることもある。

なお、II m7→V7→Iのように、ツーファイブからドミナントモーションでトニックコードに解決する進行をツーファイブワンと呼ぶ。

■テンションノート

ルートから9th、11th、13thの音程にある音のこと。シャープやフラットの指示がないテンションノートはナチュラルテンション、逆にそのような指示が与えられているものはオルタードテンションと呼んで区別している。

また、四和音の上にこれらのテンションノートを適宜加えたコードをテンションコードと言う。テンションコードは通常の三和音、四和音よりも複雑な響きとなり、テンションノートの選び方によって、コード進行の中に、より甘い、あるいはより不穏な雰囲気をもたらすことができる。また、前後のコードの構成音との声部的なつながりを維持したり、なめらかにするために利用される。

なお、例外的に認められる $\flat 9$ thと $\sharp 9$ thを同時使用するケースを除き、同じ数字を持つテンションノートは同時に用いないのが基本。コードのタイプによって加えることができるテンションノートは次のように定められている。

・利用できるテンションノート

コードの種類	テンションノート
メジャーセブンス	→ 9th、 $\sharp 11$ th、13th
マイナーセブンス	→ 9th、11th、13th
ドミナントセブンス	→ 9th、 $\flat 9$ th、 $\sharp 9$ th、 $\sharp 11$ th、13th、 $\flat 13$ th

■トライトーン(三全音)

ドミナントセブンスコード内の、3rd音と7th音の間に生じる増4度音程のこと。その響きの不穏さから、別名、悪魔の音程と呼ばれる。

■トライトーン反進行

ドミナントセブンスコードに含まれた、トライトーン(3rd音と7th音で作られる増4度音程)を形成する音のうち、3rd音は半音上行してトニックコードのルートに、7th音は半音下行してトニックコードの3rd音に進もうとするという性質を持っている。この性質のことをトライトーン反進行と呼ぶ。3rd音の半音上行と7th音の半音下行によってトライトーンの不安定な響きが解消されるとき、強い解決感が得られる。

■同主調

同一の主音を起点とするキー。必要に応じて、メジャーキーから見て同主調となるマイナーキーを同主短調、マイナーキーから見て同主調となるメジャーキーを同主長調と言って区別することもある。平行調と並ぶ、近親調の代表的存在。たとえばCメジャーキーの音階は“ドレミファソラシド”だが、同主短調のCマイナーキーの音階は“ドレミ \flat ファソラ \flat シド”となる。

■度数

ある音からある音までの間隔(音程)を示す際に使用する単位。

メジャーのダイアトニックスケールに含まれる各音を度数で表すと、主音(完全1度)、第2音(長2度)、第3音(長3度)、第4音(完全4度)、第5音(完全5度)、第6音(長6度)、第7音(長7度)。ナチュラルマイナーのダイアトニックスケールでは、主音(完全1度)、第2音(長2度)、第3音(短3度)、第4音(完全4度)、第5音(完全5度)、第6音(短6度)、第7音(短7度)となる。

また、各種の音程を半音の数(ピアノの鍵盤やギターフレットの数)に換算すると、次のようになる。

音程	半音の数
完全1度(ユニゾン)	→ 0
短2度/増1度	→ 1
長2度	→ 2
短3度	→ 3
長3度/減4度	→ 4
完全4度	→ 5
増4度/減5度	→ 6
完全5度	→ 7
増5度/短6度	→ 8
長6度	→ 9
短7度/増6度	→ 10
長7度	→ 11
完全8度(オクターブ)	→ 12

■ドミナントセブンスコード

CメジャーキーでのG7(ソシレファ)のように、ダイアトニックスケールの属音上に構成されるメジャーのセブンスコードのこと。その成り立ちから属七の和音とも呼ばれる。構成音に含まれる、3rd音(G7の場合はシ)と7th音(同じくファ)がトライトーン(三全音) = 増4度音程を構築する。この増4度音程は不安を誘う響きを特徴とする不協和音程であるため、同じルートのドミナントコード(G)やドミナントマイナー(Gm)/ドミナントマイナーセブンスコード(Gm7)といった、トライトーンを持たないコードに比べて響きの不安定度が高く、ドミナントモーションによるトニックコードへの解決を強く希求する性格を持っている。

一方、ナチュラルマイナースケールにおいて、属音上に構成されるのは、AナチュラルマイナースケールでのEm7(ミソシレ)のようにトライトーンを含まないドミナントマイナーセブンスコード(Vm7)であり、トニックコードへのドミナ

ントモーションが成立しない。そのため実際のコード進行では、ナチュラルマイナースケール基調の曲であっても、属和音としてトライトーンを持つハーモニックマイナースケールのドミナントセブンスコード(V7)を使用する(Em7ではなくE7を用いる)ことが少なくない。

このことから、現実には即した実用的な意味でのマイナースケールのダイアトニックコードは、VmとV、Vm7とV7が混在する8つとも言える。

実際の曲でも、同一楽曲内でのV7とVm7の混用は、比較的頻繁に見受けられる。Aマイナースケール(実用版)上に構成される三和音と四和音は次のようになる。

例)Aマイナースケール(実用版)でのダイアトニックコード(三和音)

I m	→ Am
II m ⁻⁵	→ Bm ⁻⁵
♭III	→ C
IV m	→ Dm
V m	→ Em
V	→ E
♭VI	→ F
♭VII	→ G

例)Aマイナースケール(実用版)でのダイアトニックコード(四和音)

I m7	→ Am7
II m7 ⁻⁵	→ Bm7 ⁻⁵
♭III M7	→ CM7
IV m7	→ Dm7
V m7	→ Em7
V7	→ E7
♭VI M7	→ FM7
♭VII7	→ G7

なお、このV7→Imという進行では、V7の3rd音(E7の場合はソ[#])からImのルート(Amのラ)へ向かう半音上行と、V7の7th(同じくレ)からImの3rd(同じくド)への全音下行による解決となり、厳密にはトライトーン反進行と言えないものになるが、マイナーキーでは便宜上、このV7→Imという進行をドミナントモーションと呼ぶことにしている。

■ドミナントモーション

ドミナントセブンスコードからトニックコードへ向かう、強い進行感を伴った進行のこと。この強い進行感は2つの要因から生み出される。

1つ目はドミナントセブンスコードに含まれるトライトーンを持つ、トライトーン反進行と呼ばれる性質にある。トライトーン反進行は、トライトーンを構成する2つの音がそれぞれダイアトニックスケール内にある最も距離の近い(半音程にある)音にすり寄りたがる現象と考えればわかりやすいだろう。このトライトーン反進行の力が、ドミナントセブンスコードがトニックコードを希求するパワーの1つと言える。

もう1つの要因は、ダイアトニックスケールの属音から主音へと向かう、ルートの完全4度上行にある。完全4度進行は、強進行という別名を持つほど進行感が強い。これが進行感を生むもう1つのパワーになっている。

ドミナントモーションは、これら2つの力を兼ね備えているため、他の進行よりも強力な進行感を持つわけだ。

なお、7th音を持たない三和音のドミナント/ドミナントマイナーコードや、トライトーンを持たないドミナントマイナーセブンスコードからトニックコードへ進行する場合は、トライトーン反進行が成立しないため、厳密にはドミナント

モーションと呼ばないが、多くの場合、便宜的にこれらも含めてドミナントモーションと呼ぶ。

■付加音

三和音に響きを加えるために追加される音。コードネーム表記では、ルートから長6度の音を加えた□6(シックス)や、9度の音を加えた□add9(アドナインズ)などのように書かれる。四和音に加えられるテンションノートとは別物。

■平行調

同一の調号で書き表すことができるキー。必要に応じて、メジャーキーから見て平行調となるマイナーキーを平行短調、マイナーキーから見て平行調となるメジャーキーを平行長調と言って区別することもある。同主調と並ぶ、近親調の代表的存在。

たとえばCメジャーキーの音階は“ドレミファソラシド”だが、これを“ラ”から読み始め“ラシドレミファソラ”に並べ替えるとそのままAマイナーキーの音階となる。このような関係性にあるキーを平行調と呼んでいる。

■DAWソフト

現在の音楽制作ツールの中核をなす、ボーカルや楽器の演奏の録音(オーディオレコーディング)、シンセ/サンプリング音源用演奏データ(=MIDIデータ)のプログラミング、録音した演奏のミキシングといった、音楽制作全般を目的とするソフトウェア。DAWはDigital Audio Workstationの略。マスタリング機能を持つものやスコア作成機能を持つものもある。代表的なものとして、Cubase Proシリーズ、ProTools Softwareシリーズ、Studio Oneシリーズ、Logic Pro X、Digital Performerなどがある。



索引 - INDEX

■英数字

5音音階 88-90
sus4コード 181, 182, 245

■ア～エ

アポイドノート 190, 191
移調 106, 108, 109, 112, 117, 119, 120, 122, 136, 137
移動ド 118, 119, 122
異名同音 29, 30, 32, 33, 54, 75, 128, 135, 242
異名同音調 128
異名同音程 75
裏コード 241-243, 245, 246
遠隔調 146, 147

■オ

オーギュメント 76, 158
オーギュメントコード 158, 159, 168
オクターブ 13, 16, 27, 34, 38, 39, 43-46, 48-52, 60, 70, 78-84, 87, 90, 100, 123, 150, 176, 179, 189, 217
オクターブユニゾン 44-46
オルタードテンション 188, 189, 191, 196
オンコード 174, 175, 179
音部記号 24-26
音名 11, 12, 14-21, 24-29, 38, 44, 55, 64-66, 75, 78, 84, 96, 97, 109, 111, 112, 114, 116-122, 129, 148, 155, 156, 164, 175, 190, 219

■カ

階名 118-122
下屬音 139, 141, 142, 144, 147, 202, 238
下屬調 141-145, 147
下屬和音 203
完全1度 73, 76, 79, 141, 144
完全4度 72, 73, 76, 78, 79, 130, 133, 135, 141, 142, 144, 147, 178, 180-183, 190, 215, 218, 219
完全5度 71, 72, 76, 78, 79, 129, 130, 134, 135, 141, 142, 144, 147, 151, 157, 158, 164, 176, 193, 215, 238, 241
完全8度 73, 76, 79, 83
完全協和音程 71, 73, 76, 80

■キ～コ

基音 39, 40, 41, 43-46, 49, 51, 52, 60, 70, 150-152, 186
強進行 210, 219, 231
近親調 138, 141-147
クロマティックスケール 87, 138
ケーデンス 197, 206, 210-217, 220, 230
減5度 72, 76, 78, 79, 157, 167, 168, 193, 218, 220
減7度 167-169
減音程 74, 76, 80
減三和音 156, 157, 159, 166-169, 198
コードトーン 185, 186, 191-193, 195, 196, 225, 244
五度圏 134, 135, 145-147, 243
コンビネーションオブディミニッシュスケール 106

■サ

サークルオブフィフス 134
サブスティテュートドミナントコード 243
サブドミナント 139, 202, 203, 205, 208,
220, 224, 235, 240, 246
サブドミナントコード 203
サブドミナントマイナー 235, 240, 246
三全音 218
三和音 150, 152-154, 157, 159-163, 166,
168, 169, 178-181, 183, 187, 198, 200, 201,
203, 204, 216, 217, 219

■シ

自然短音階 103-105, 112, 140, 142, 153,
204
シャープ 19, 21, 29, 30-33, 58, 64-66, 82,
115, 120, 126-130, 132, 133, 135, 142, 147,
158, 186, 196, 201, 203, 233
弱進行 210
重減音程 74
重増音程 74
主音 132, 133, 135, 136, 139-142, 144, 147,
164, 202, 208, 218-220, 224, 234, 240, 241
主調 141, 143-147
主要三和音 203-205, 210, 222-224, 229,
232
主和音 203, 224, 225
準固有和音 234, 235, 240

■ス～ソ

スリーコード 205
セカンダリドミナント 235, 237-239, 241,
242, 246
絶対協和音程 76
セブンスコード 164, 169, 190, 191

全音 30, 54, 55, 61-63, 76, 88-92, 95-98,
121, 138, 140, 169, 191, 213, 217
全音音階 87-90
全音階 89-94, 138
旋律短音階 104, 105
増4度 73, 76, 78, 79, 218, 220
増5度 72, 158
増音程 74, 76
増三和音 158, 159, 168, 169, 198
属七の和音 164, 217
属調 141-147
属和音 203

■タ

第7旋法 106
ダイアトニックコード 200, 202-205, 208,
213, 216, 220, 222, 224, 226-228, 232-234,
237-239, 241, 243, 246
ダイアトニックスケール 90, 138, 139, 141,
142, 147, 202, 218
代理和音 224-230, 232
タブ譜 8, 9, 11, 14
ダブルシャープ 30, 33
ダブルドミナント 241, 242, 245, 246
ダブルフラット 30, 33
短2度 63, 67, 70, 82, 177, 179, 180, 183,
190
短3度 56-58, 62, 63, 70, 76, 81, 83, 122,
126, 142, 144, 151, 153-157, 159, 167, 168,
193
短6度 64, 67, 76, 80
短7度 65, 67, 80, 162-167, 169, 217
短音階 90, 91, 92, 94, 96-106, 112, 114-
117, 119, 123, 136, 138, 140-142, 153, 204
単音程 83, 84, 189, 196

短音程 62, 66, 73, 74, 76, 79, 80, 82
短三和音 156-159, 165, 166, 169, 180, 198

■チ

長2度 63, 66, 70, 79, 80, 82, 88, 122, 179
長3度 56-58, 62, 63, 70, 76, 80, 84, 108,
122, 151, 154-156, 158, 190, 193
長6度 64, 67, 76, 81, 126, 180, 181
長7度 65, 67, 147, 162-166, 168, 169, 190,
219
長音階 90-92, 94-103, 105, 109, 110, 112,
114-117, 119, 123, 138, 141, 142, 153
長音程 62, 66, 74, 76, 82
調号 114, 116, 123, 125-129, 131-135, 142,
144, 147, 203, 233
長三和音 155-159, 163, 164, 166, 169, 180,
198, 217
調性 29, 107, 108, 145, 148, 199, 200, 202,
205, 234

■ツ～テ

ツーフाइブ 230-232, 239
ディミニッシュ 76, 193
ディミニッシュコード 156, 157, 159, 166
ディミニッシュスケール 106
ディミニッシュセブンスコード 168, 169,
191, 193
転回 49, 78-82, 84, 130, 135, 169, 170,
171, 173, 177-179, 183, 196, 215, 217, 238,
244
転回形 171-180, 183, 244
テンションコード 82, 184-187, 189, 192,
194-196, 204, 216, 227, 235, 244
テンションノート 81, 82, 185-196, 204, 239,
240, 244

テンションの解決 193
テンションリゾルブ 193
転調 34, 135-138, 146, 147, 235, 237, 238,
240

■ト

導音 140-142, 147, 219
同主調 141-144, 146, 147, 234, 240
ト音記号 25-27
ドッペルドミナント 242
トニック 89, 138, 139, 202, 203, 205, 208,
220, 224
トニックコード 203
ドミナント 140, 164, 202-205, 208, 220,
224, 225, 237-239, 244
ドミナントコード 203
ドミナントセブンスコード 164, 169, 191,
193, 216-219, 220, 225, 235, 237-239,
241-243
ドミナントモーション 220, 245, 246
トライアド 153
トライトーン 217-220, 242

■ナ～ノ

ナチュラルテンション 188-192, 196
ナチュラルマイナースケール 103, 105, 153,
204
ノンダイアトニックコード 233-236, 238,
246

■ハ～ヒ

パーフェクト 76
ハーモニックマイナースケール 103, 105,
142, 153, 154, 158, 162, 164, 165, 168, 204,
205, 237, 238

倍音 34-37, 39-47, 49, 51-53, 55, 57-61,
63-67, 70, 78, 150-152, 176, 177, 186, 194
八音記号 25

パッシングディミニッシュ 240, 246

パッシングディミニッシュコード 240, 241

半音 28, 30-33, 54-57, 59, 61-66, 69,
71-74, 76, 80, 87-90, 95-98, 100, 103, 108,
110, 111, 113, 115, 117, 120, 121, 129, 130,
132, 137, 138, 140, 147, 157-159, 167, 169,
177, 188, 202, 213, 217, 218, 219, 238, 241

半音階 87-90, 138

ピアノロール 12-14

■フ～ハ

付加のコード 186, 187, 196, 204, 216, 227

付加和音 187

不完全協和音程 76

不協和音程 76, 177

複音程 83, 84, 189, 196

副三和音 222-224, 232

副属七の和音 237

フラット 20, 21, 29, 53, 58, 64-66, 82, 115,
124, 127-130, 132, 133, 135, 142, 147, 151,
152, 157, 186, 196, 201, 203, 233

ブルーノートスケール 106

分数コード 174, 175, 179, 237, 244

平行調 141-147

ヘ音記号 25-27, 43

ペントニックスケール 89

■マ～メ

マイナーキー 123, 126, 141-143, 202, 203,
233, 237, 238

マイナーコード 156, 159, 165, 201-203, 240

マイナースケール 90, 98, 103, 126, 138,

142, 143, 153, 202, 227, 228, 237

マイナーセブンス^b5thコード 168, 169, 191,
193

マイナーセブンスコード 169, 191

マイナーメジャーセブンスコード 169

メジャーキー 119, 120, 126, 132, 133, 135,
141-144, 201-203, 210-212, 214-217, 233,
234, 239-241, 244-246

メジャーコード 155, 159, 163, 201-204

メジャースケール 90, 98, 119, 126, 132,
133, 135, 138, 142, 143, 153, 154, 162, 164,
165, 200-203, 205, 219, 224, 226-228, 232,
233, 237, 239, 241, 243

メジャーセブンス[#]5thコード 169

メジャーセブンスコード 164, 169, 190, 191

メロディックマイナースケール 105

■ユ～ワ

ユニゾン 46, 62, 71

四和音 157, 160, 162-169, 179-183, 185,
187, 198, 204, 205, 216, 217, 227, 237

リーディングトーン 140

ルート 47, 48, 81, 82, 84, 151, 152,
154-159, 162-164, 167-169, 171, 173, 174,
178-181, 183, 185-187, 190, 193-196, 198,
208, 214, 215, 217, 220, 224, 225, 231, 238,
241, 243, 244

和声短音階 102-105, 140, 142, 153, 204